

監査委員研修レポート（平成27年10月7日～8日）

研修先 メルパルクホール東京
研修内容 ①地方創生②政策下の諸課題

・効率的監査の執行と
監査責任

・地方公共団体監査制
度と監査委員の役割

参加者

代表監査委員

川村 和正

議選監査委員

中島 和正

地方制度調査会の答申等を踏まえ、
①「地方創生」政策下の町村を
取り巻く諸課題

②効率的監査の執行と監査責任

③地方公共団体監査制度と
監査委員の役割

の3部構成による研修会に参加した。地方創生が叫ばれる中で、自治体を取り巻く環境の変化や自治体ということに対する自覚と責任と覚悟など、変わる住民生活と住民の政治的
意思形成など、激しさを増す自治体
間競争の中でどのような自治体を構
想するか、住民本位のまちづくり・地
域づくりのための自治体戦略の重要
性を学んだ。

その中で、監査委員の果たすべき



研修会の様子

効率的監査の執行や公会計制度改革で、財務書類4表（貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算書）を活用した業績評価や政策決定の過程等に活用してはどうかなど統一の見解が示された。また、金融商品取引法や会社法における監査の有効性が今後の自治体監査委員の監査にも、多分に影響を与えることが予想がなされ、内部統制の充実強化の重要性を学んだ。
今回の研修も監査技術をさらに磨き、監査委員としての資質の向上と大木町における監査事務の発展に資する充実した研修であった。

大川市・大木町 議員懇談会報告（平成27年11月6日）

研修先 大川市役所
研修内容 ゴミ処理問題について
参加者 全議員

ごみゼロを目指す大木町の取組みの現状と今後の取組みについて説明。

生ごみ循環事業の効果、生ごみの分別によるリサイクル率60%強とアップ、出来た液肥の活用について、廃プラ回収量の推移状況、古紙・古布の回収の改善（地区別に常設場所を設置）による回収量の増加推移、新たに取組みを始めた紙おむつ回収の推移と処理施設についてそれぞれ報告。みやま市など新たに取組みを始めた事、海外との交流について説明。

次に大川市より大川市及び大木町の燃やすゴミ量の推移、現状と問題点について説明。

焼却炉の現状と改修計画について、竣工から二十年以上経過して修理改善が必要になってきた状況、大川市の分別収集状況について、資源ごみ持ち込み施設、粗大ごみ解体・高度分別業務について、木くず、剪定枝の資源化、硬質プラの処理、容器包装プラスチック処理等の状況の説明に続



懇談会の様子

き生ごみ処理機の導入状況の説明を受けた。
大川市における燃やすごみ回収の取組みについて新しいごみ袋の取組みを説明。

今後も発生抑制、再使用、再生利用活動に取組み、効率化を図り循環型社会の形成を進めていくとのこと。
八女西部一部事務組合の不燃ごみ処理の負担金については、協同で対応してゴミ問題に取組むことで一致した。